

## 教育の地域的差違

坂田喜良

日本の教育の歴史を考えると、第二次大戦を境にしてその内容が大きく変わったと言えよう。戦前までの教育は個人のためではなく、その母体である社会（国家）のためにあくまで役に立つ人間を育成することであったと考えられ、それに従って教育がなされてきた。しかし、大戦を境にして我国の教育は個人を主体とし、社会に出てその要求に答えうるだけの全般的な十分な教育を行うことに変化してきた。

そこで、将来我国を背負っていく子供たちの教育を現在の親はどう考えているのか。更に地域的には（都市や農村においては）教育に対する考え方の違いがあるのか。ということを一項目にわたって調査したものである。

### △教育の現状▽

現在または未来社会における急激な環境の変化を考えると、その主体としての人間のあり方が問題となり、人間の様々な素質・能力を統一するところの本質的な価値である人格が重要視され、その人格の完成を目ざすものが教育だと考えられる。

明治以前の日本あるいは東南アジアの多くの社会においては、家庭教育が子弟の教育にあたる重要な役割を果していた。ところが、明治になってからの国民教育制度としての学校教育制度の発達によって、家庭教育の大きな機能は縮小し始め、近代社会における学校は初等教育に力を注ぎ、全ての子供に教育を行いたいという要望から、家庭教育機能は学校教育に移譲され、親の持っている自然の教育権は公教育によってもっぱら制限される形をとってきた。しかも我国においてはこの家庭教育から学校教育への移行が、急激になおかつ極端に行なわれたと言ってもさしつかえないと思う。つまり、日本の学校教育の発達はいくつかの家庭の自覚から生まれたというよ

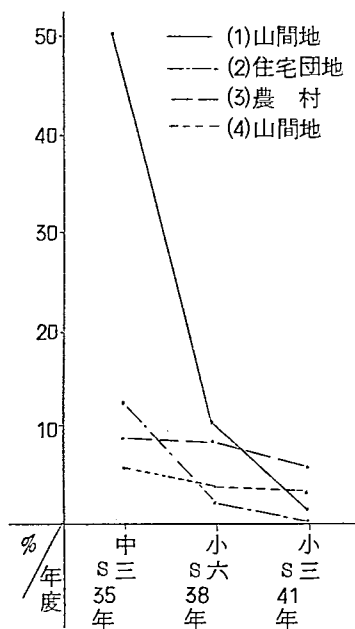
りも、国家権力によって上から強力に指導されたために、とかく家庭教育を軽視する傾向があるのではなからうか。

# △地域的な教育への関心の差違▽

## 1. 学校教育

たいていの親は子供によい環境を与え、よい影響を与えるためのこれといった自信を持っていない。こうした不安のため、就学前には幼稚園・保育園への通園を希望し、就学後には学校教育に大きな期待を寄せ、更に学校教育だけでは不十分だとして学習塾へ行かせたりしており、これが中学・高校への進学とつながり年々その傾向は強まり、親の関心は教育特に学校教育に集中し、子供の進学には異常なまでの教育熱が発揮されているのが現状であると思う。

ところで、このような親の教育熱は地域的にはどうなのか。まったく異質な機能を有する都市や農村における親の子供への教育を考えてみる。



(図-1) 未就園児の割合

|      | 中学     | 高校  | 短大      | 大学  |
|------|--------|-----|---------|-----|
| 山間地  | 3<br>% | 63% | 14<br>% | 20% |
| 農村   | 59     |     | 19      | 22  |
| 住宅団地 | 27     | 22  | 51      |     |
| 市街地  | 27     | 13  | 60      |     |

(図-2) 男子

子供に受けさせたい教育程度

図一を見るに年々未就園児の割合は減少しており、ある地域では義務教育と同様の普及率を示すところもある。

図一二では義務教育をもって学校教育を終らせ、上級学校へは進学させないという親はほとんどなく、高校以上の教育を受けさせようとしている。

以上のようなことを考え合わせて見ると、以前では親の子供への教育に対する考え方には、地域によって差が認められた。しかし、現在ではこと学校教育に関して地域による大差は認められず、両地域とも親の学校教育への期待は大きいと言えよう。

## 2. 家庭教育

現在のしつけを進める親の教育的姿勢が、親の子供に対する期待感と無縁でないと考え、その姿勢を考えてみると、

- (1) 理想的 親が子供の言い分を聞いて、話し合いによって行う方法
- (2) 一方的 がみがみと怒鳴りつけ、親の権威をかさに着てしかる方法
- (3) 他力的 自分の言うことを聞かないので、第三者を引合いに出す方法
- (4) 放任的 めんどくだから放っておく方法

の四つのタイプが考えられるが、地域的にはどう現われているのだろうか。

図一三からして、家庭教育にあたる親の態度は都市では理想的・一方的なしつけ方法が用いられ、農村では他力的・放任的なしつけ方法が用いられているように、教育に対する考え方の差違があるのではないか、この点を明らかにしようとするものである。

## △対象者▽

農村 全国でも教育水準の高い長野県北安曇郡白馬村佐野地区の小学校の父兄一一〇名に質問紙を配布。

| 方法 \ 地域 | 市街地 | 住宅地 | 農 村 | 山間地 |
|---------|-----|-----|-----|-----|
| どなる・たたく | 26  | 37  | 26  | 8   |
| 先生に言う   | 23  | 20  | 35  | 26  |
| い い ぶ ん | 80  | 83  | 69  | 75  |
| め ん ど う | 15  | 13  | 19  | 16  |

(数字は%)

図-3 しつけの方法

(数字は%)

| 職業 \ 地域 | 都市   | 農村   |
|---------|------|------|
| 農 業 専 門 | 0    | 8    |
| 林 業     | 0    | 1    |
| 観 光 業   | 0    | 4    |
| 兼 業     | 2    | (39) |
| 農又林と出稼  | 0    | 1    |
| 生産工程者   | 0    | 3    |
| 自 営 業 主 | (66) | 8    |
| 民間会社員   | 27   | 8    |
| 公 務 員   | 2    | 25   |
| 無 回 答   | 2    | 3    |

都市 回収率九六%・有効率一〇〇%  
 東京都中央区八丁堀の小学校の父兄五〇名に質問紙を配布。  
 回収率八八%・有効率一〇〇%  
 農 村 昭和四七年八月二六日～九月四日  
 都市 昭和四七年十月六日～十月十二日  
 △調査期間▽  
 △基礎的調査▽

(数字は%)

| 収入 \ 地域   | 都市   | 農村   |
|-----------|------|------|
| 4 万 円 以 下 | 0    | 1    |
| 4 - 6     | 0    | 5    |
| 6 - 8     | 0    | 14   |
| 8 - 10    | 5    | 13   |
| 10 - 15   | 11   | (15) |
| 15 万円以上   | (84) | 0    |
| 無 回 答     | 0    | 52   |

△事例調査▽

一、伝統的教育観

問 1. 家名を重要視するか

世間に対する家族の連体責任感、現在依然として強く残っており都市よりも農村の方が更に強いと言える。

三、父権と母権の比重  
 問 5. 子供の進路  
 問 6. 子供の教育を見る場合

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 是非継いでい  | 2  | 14 |
| できたら    | 30 | 42 |
| 継いでほしい  | 68 | 44 |
| 本人しだい   | 0  | 0  |
| 無回答     | 0  | 0  |

表-2

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 大ににする   | 30 | 38 |
| 必ずしもしい  | 68 | 53 |
| 全くしない   | 2  | 9  |
| 無回答     | 0  | 0  |

表-1

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 立身出世    | 20 | 46 |
| どちらでもよい | 11 | 10 |
| 能力相応    | 68 | 41 |
| 無回答     | 0  | 3  |

表-3

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| そうしたい   | 39 | 8  |
| できたら    | 43 | 70 |
| 考えていない  | 18 | 23 |
| 無回答     | 0  | 0  |

表-4

二、子供に対する補償的要求  
 問 2. 親の願望の実現(職業)  
 問 3. 子供の将来  
 問 4. 高い教育を受けさせたいか  
 傾向としては能力相応と補償的要求が同位置にあり、地域的に考えると特に農村の親にこの面が強いと言える。

問 12. 教師の体罰  
 問 13. 学校に何を望むか  
 問 14. 幼児教育

( % )

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 親の判断    | 18 | 30 |
| 子供との話合  | 75 | 49 |
| 要求をきく   | 7  | 21 |
| 無回答     | 0  | 0  |

表-7

( % )

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 父親中心    | 7  | 9  |
| 母親中心    | 7  | 9  |
| 両親の話合   | 16 | 23 |
| 本人との話合  | 70 | 60 |
| 無回答     | 0  | 1  |

表-5

五、学校教育  
 問 8. 成績表  
 問 9. 宿題の是非  
 問 10. 成績が落ちた時はどう対処するか  
 問 11. 教師の性別

決められ、親の歩み寄りが見られる。  
 農村でも同じ傾向にあるが、まだまだ親の権威が強い。  
 しかし、全体を通して見ると今日の親はかなり、子供に対して理解的と言えよう。

( % )

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 全て父親    | 16 | 18 |
| 全て母親    | 5  | 37 |
| 教育費用 母親 | 68 | 44 |
| 無回答     | 11 | 1  |

表-6

地域差は全くみられず、子供の進路では父権とか母権は影を潜め、子供との話し合いという能力相応を重んじている。  
 子供の教育に関しては、父親より母親の占める割合が非常に大きい。  
 四、子供の要求に対する理解度  
 問 7. 子供の要求にどう対処するか。  
 都市では親子の話し合いによって

学校教育に関しては、地域差に関係なく子供の教育にはかなり高い関心を示しているにもかかわらず、都市ではとくに試験地獄などと言われるように、学力中心に力が注がれているのではないかと考えた私の推測とは多少異り、逆に、人格中心を望んでおり一応の目安としていることである。

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 男       | 23 | 39 |
| 女       | 7  | 9  |
| どちらでも   | 70 | 52 |
| 無回答     | 0  | 0  |

表-11

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 大変よい    | 5  | 34 |
| 一応の目安   | 95 | 61 |
| 気にしない   | 0  | 5  |
| 無回答     | 0  | 0  |

表-8

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| ある程度    | 86 | 37 |
| 絶対反対    | 11 | 29 |
| 大いに     | 2  | 34 |
| 無回答     | 0  | 0  |

表-12

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 毎日      | 25 | 67 |
| たまに     | 66 | 30 |
| 出さない    | 0  | 1  |
| 無回答     | 9  | 2  |

表-9

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 学力中心    | 7  | 38 |
| 人格中心    | 93 | 59 |
| どちらでもよい | 0  | 3  |
| 無回答     | 0  | 0  |

表-13

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 激励      | 48 | 50 |
| 一諸に勉強   | 16 | 35 |
| 塾       | 0  | 7  |
| 家庭教師    | 11 | 4  |
| そのまま    | 23 | 6  |
| 無回答     | 2  | 0  |

表-10

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 | 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|---------|----|----|
| 絶対行かせる  | 57 | 52 | 施設がない   | 2  | 1  |
| 行く必要ない  | 9  | 39 | 無回答     | 11 | 1  |
| 他人が行くから | 20 | 8  |         |    |    |

表-14

(%)

農村では都市と同じ様な傾向が見られるが、学力中心を望む者もかなりの割合を占めており、学習という学校教育への期待は大きいと言えよう。

# 六、家庭教育

- 問 15. 他人の子供に対する態度  
 問 16. 手伝い  
 問 17. 手伝いに対する報酬  
 問 18. 子供に対するしつけ  
 問 19. 家庭での体罰  
 問 20. 家庭での団らん  
 問 21. 子供の友達に制限を加えるか  
 問 22. 子供の先生に対する不へい

(%)

| 地域<br>答         | 都市 | 農村 |
|-----------------|----|----|
| 親がいてもいなくてもたしなめる | 30 | 30 |
| 親に注意            | 2  | 14 |
| 親が側にいなければたしなめる  | 61 | 54 |
| 黙っている           | 7  | 2  |
| 無回答             | 0  | 0  |

表-15

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 必要に応じて  | 39 | 61 |
| あきらめる   | 11 | 6  |
| 働きかける   | 50 | 30 |
| 無回答     | 0  | 3  |

表-16

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 与えない    | 64 | 26 |
| お金      | 11 | 36 |
| 時々買う    | 25 | 37 |
| 無回答     | 0  | 1  |

表-17



な方法が多く用いられているようである。農村では、子供の人格を尊重しながらも、手伝いなどは強制的手段を用いており、親子の接触に努力している反面、子供への理解には消極的と言えよう。なお、放任的なしつけ方法はほとんど姿を消し、現在の農村では都市と同じ様な傾向になりつつあると言えよう。

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 子供によって  | 59 | 23 |
| 親によって   | 2  | 13 |
| 自由      | 39 | 64 |
| 無回答     | 0  | 0  |

表-2 1

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| たしなめる   | 5  | 39 |
| 言い分をきく  | 52 | 16 |
| 聞き流す    | 32 | 34 |
| 先生と話合う  | 11 | 11 |
| 無回答     | 0  | 0  |

表-2 2

家庭教育においては、その土地の持っている特質が大きな要因となり差違として現われている。

都市では、子供に対して自主性を望んでおり、しつけの面では厳しい態度をとっており、親に積極性（理解性）が見られる反面、親子の接触においては多少消極的の面が見受けられる。なお、子供のしつけ方として、理想的

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 体罰      | 9  | 9  |
| 口でしかる   | 30 | 29 |
| 言ってきかせる | 64 | 56 |
| 放っておく   | 2  | 8  |
| 無回答     | 0  | 1  |

表-1 8

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 必要      | 59 | 33 |
| 反対      | 41 | 66 |
| 無回答     | 0  | 1  |

表-1 9

(%)

| 地域<br>答 | 都市 | 農村 |
|---------|----|----|
| 毎日      | 11 | 3  |
| たまに     | 30 | 51 |
| ぜんぜん    | 59 | 44 |
| 無回答     | 0  | 2  |

表-2 0

最後に、これからの社会はより複雑となるであろうし、教育においても様々な問題が派生してくるであろう。そこで考えなくてはならないのが、子供の教育を見るにあたり親がどう対処すべきなのかということであり、広く将来の教育のあり方なのである。

親は子供にとって最初の教育者である。それ故、いっそう良い手本を示すよう心がけねばならないし、理解と信頼と愛情を常に持ちながら、愛情過多・放任などの誤った養育に注意して、常に親と子のコミュニケーションの場をつくっていくよう努力しなければならないのである。